

「清掃活動」実践紹介

担当者：上野 修嗣

学年：2年3組各班（8～10名程度）

活動名：職員室・2階渡り廊下の清掃

活動のねらい（7つのチカラ：7.自立する力、6.チームワーク力 等）

- ・清掃を自主的かつ効率的に行うことができる。

清掃時間の流れとパフォーマンス課題

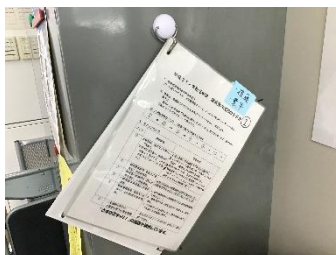
生徒が「清掃を自主的かつ効率的に行う」ことがパフォーマンス課題という位置づけで実施している。

①本日の清掃担当区画と清掃手順を確認

- ・指揮者（日替わり）による点呼の後、清掃の手引きを見ながら、本日の清掃について見通しを立てる。

（当日のごみ捨て担当が指揮者となる。）

※清掃の手引きには、清掃区画の手順（表面）と範囲（裏面）が明示されている。



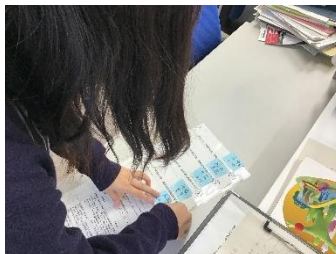
②2人の小グループに分かれて清掃する

- ・清掃区画は青テープで境界を明示。
- ・まず各区画のごみ箱を1か所に集め、ごみ捨て担当が回収。（回収後もとに戻す。）
- ・各小グループで清掃活動を行う。



③清掃終了～清掃用具の片づけ

- ・指揮者は清掃活動終了後、手引きに貼付している名票を明日の分担に貼り替える。
- ・清掃用具を片付ける際も、用具を長持ちさせるように配慮している。



パフォーマンス課題の評価

| | No. | 対象者 | 2点 | 1点 | 0点 |
|-----|-----|-----|----------------------------------|-----------------------------------|---|
| 清掃前 | 1 | 全員 | 開始時間までに清掃場所に行き、分担箇所を確認した。 | 開始時間までに清掃場所に行った。 | 開始時間までに清掃場所に行かなかった。または、欠席した。 |
| 清掃中 | 2 | 全員 | 用具を正しく使って、清掃が丁寧にできた。 | 用具を概ね正しく使って、清掃が概ねできた。 | 用具を正しく使わず、清掃もできていない。(例)ホウキを引きずったり、押したりしている。 |
| | 3 | 全員 | 掃き集めたり、ごみ箱にあったごみ等を、すべてごみ袋に回収できた。 | 掃き集めたり、ごみ箱にあったごみ等を、概ねごみ袋に回収できている。 | 掃き集めたり、ごみ箱にあったごみ等が、回収できていない。 |
| 清掃後 | 4 | 全員 | 用具をきちんと片付けた。 | 用具を適当に片付けた。 | 用具を片付けていない。 |
| | 5 | 担当 | 集めたごみ袋やその他捨てる物をごみ置き場に正しく置いた。 | 集めたごみ袋やその他捨てる物をごみ置き場に適当に置いた。 | 集めたごみ袋やその他捨てる物が清掃場所に残っている。 |

単元を通して身につけてほしいこと

- ・生徒は、自宅では家族に清掃をしてもらっていることが多く、学校の清掃活動に積極的に取り組む者も少ないのが現状だと思います。普段の清掃活動を通じて、用具の正しい使い方やメンバーで分担して短時間で効率よく清掃を行う方法を身に付けてほしいと願っています。
- ・そして、将来職場等で清掃を行う際、この経験を活かしてもらいたいと考えています。

実践の背景

- 本校は平成29年度から3年間「高等学校学力向上プロジェクト 学カステップアップハイスクール事業」の研究指定を県教育委員会から受けています。この事業では「望ましい学習の態度・意欲ルーブリック」に加え「生活」や「課外活動」等を含めた「学修ルーブリック」を作成して、生徒が自分の成長を可視化できる仕組みづくりに取り組んでいます。本実践は、学力向上に向け、生徒個人や集団としてのレディネスを育み、効果的な学習の土台づくりに資するものとして企画しました。
- また、授業を担当していない教頭として、生徒と直接触れ合える貴重な時間が「清掃の時間」です。その時間を通して、生徒に将来にわたって役に立つ資質・能力を身に付けてもらいたいと考えました。

授業改善のアプローチ

- 学校の小規模化が進むと清掃分担箇所が広くなり、丁寧な清掃ができにくくなります。そこで、普段の清掃活動について、思い切って「選択と集中」を図り、普段は職員室内のみを清掃し、渡り廊下は時間のある大掃除の際に行うこととしました。
- 本校の生徒の中には、口頭での指示を上手に整理することや、ゴールに向けて見通しを立てて行動することが苦手な生徒も多くいます。そうした生徒がきちんと清掃活動に取り組むために、望ましいゴールに向けた作業内容・進め方を簡潔・明確にして、あらかじめ示しておくことが大切だと考えて仕組みづくりを行いました。

生徒の変容

(自立する力)

これまで行ってきた「清掃の時間」と、本実践とを比較すると、生徒からは、「自分が行うことがはっきりとわかるので、やりやすい。」等作業内容が簡潔で明確になっていることを歓迎する声が多数ありました。また、「用具をきちんと使いたい。」等、ルーブリックで示す理想的な姿を参考にして清掃の仕方を考える生徒もでてきました。

この取組を始めた結果、出張や会議等で清掃に立ち会えなかった場合でも、自主的にかつ丁寧に職員室を清掃してくれているので、とてもうれしく感じています。

行き届かない点があっても、理想とする姿をあらかじめ示していることで、指導もしやすくなりました。



(チームワーク力)

基本的に男女ペアによる2名で活動するので、自分が欠席等をするとペアに迷惑がかかることが明白です。欠席しがちだった生徒が年度末に「欠席が多かったので休まないようにする。」という反省を述べ、3年次では欠席がほとんどなくなった例もありました。

ごみの量が多い時には、他のメンバーが手伝う姿も頻繁に見られます。

評価

- ①年度初めに、上記「パフォーマンス課題の評価」で示したルーブリックにより、1年次までの自己の清掃への取組について自己評価させます。
- ②各班の清掃担当期間終了時や年度末等、適宜①と同様のルーブリックで、振り返り・自己評価をさせます。
- ③他の清掃場所での評価も含めて蓄積し、生徒の個人内評価の充実を図るとともに、その成果をe-Portfolioへ反映させることが可能です。(現時点で未実施)